

事務事業マネジメントシート(平成24年度実績と平成25年度計画)

平成25年 8月29日更新

事務事業名	マタニティ学級実施事業				<input type="checkbox"/> マニフェスト関連	<input checked="" type="checkbox"/> 全庁横断課題関連	<input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連
総合計画	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり		所属部	健康福祉部	課長名 安武 祐次
体系	施策	19	子どもを見守り、育てる地域づくり		所属課	健康づくり推進課	担当者名 福本 美恵子
	基本事業	58	地域における子育て支援		所属班	健康推進班	(内線) 2132
予算科目	会計一般	款 4	項 1	目 6	事業連番 10593	法令根拠 母子保健法	成果優先度評価結果 : ④ コスト削減優先度評価結果 : ⑨
終了、開始年度	<input type="checkbox"/> 24年度で終了 <input type="checkbox"/> 24年度から開始				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 18 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~ 年度)	

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	平成9年より母子保健法に基づき、生涯を通じた女性の健康支援として開始。前期・後期を1クールとし、妊婦及びその家族が、安心して妊娠・出産・子育てができるよう情報提供を行っている。また、仲間づくりの場とすることで、意見交換ができ、出産・育児への不安、悩みなどの不安解消を図っている。講話では妊娠の経過、産前産後の過ごし方、赤ちゃんを守る制度について情報提供。栄養については調理実習と試食を行い、実習では妊婦疑似体験、沐浴指導を実施している。
【業務の流れ】	周知方法は、母子健康手帳交付時に事業の紹介及びパンフレットを配布。また、対象者を抽出し、案内のハガキを郵送している。前期・後期で妊娠中の生活についてや出産後の制度の説明、妊婦疑似体験・沐浴指導を保健師が実施し、栄養士が栄養講話、調理実習を実施。
【主な予算費目】	賃金(栄養士)、需用費(消耗品費)、役務費(通信運搬費)
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	参加者からは、友達ができ、妊娠中だけでなく出産後も相談しながら子育てできる仲間ができて本当に良かった。出産や育児の不安解消になった。沐浴の練習が出来て、実際に役に立った。夫からは、妊婦疑似体験をして妊婦の気持ちが分かったという意見が聞かれる。

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標	新規・拡充区分
① 手段(主な活動) 24年度実績(24年度に行った主な活動)(DO)	25年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
前期6回、後期6回実施。参加者総数248人(3月末現在)。	前期6回、後期6回実施する。
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 予算の主な増減の理由
→ ア: 参加者数(妊婦及び配偶者)	人 前年度はマタニティ学級テキストの購入があったが、無料配布資料を活用することとなったため消耗品費の減。
イ: 参加妊婦数(実人数)	人
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)
妊婦(夫や祖父父母の同居も可)	(単位) 人
	→ ア: 妊婦
	イ:
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)
妊娠・出産について学び、妊婦同士の友達づくりの場を提供することにより、育児不安の解消を図る。また、安全な出産につなげることができる。	(単位) %
	→ ア: 参加者の満足度(60%以上)
	イ: 参加率
*③成果指標設定の理由と25年度目標値設定の根拠	
参加率と満足度が上がることで、妊婦の出産・育児に対する不安の解消を図ることができるため、成果指標として設定する。	
総トータルコスト 全体計画 ~ 年度 0	

(2) 各指標・総事業費の推移	単位	22年度	23年度	24年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
		実績(決算)	実績(決算)	目標(当初予算)	実績(決算)	目標(当初予算)	予定	見込	見込
① 活動指標	ア 人	219	219	250	216	250	250	250	250
	イ 人	127	119	130	116	130	130	130	130
② 対象指標	ア 人	614	628	640	624	650	660	660	660
	イ 人								
③ 成果指標	ア %	97.9	84.4	100	95.1	100	100	100	100
	イ %	20.6	18.9	25	18.6	25	25	25	25
投資 入 費 量	国庫支出金	千円	86	92	72				72
	都道府県支出金	千円							
	地方債	千円							
	その他	千円							
	繰入金	千円							
	一般財源	千円	178	46	137	186	148	163	137
	(A) 事業費計	千円	264	138	209	186	148	163	209
	(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0
	(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
	正規職員従事人数	人	9	9	6	10	6	6	6
延べ業務時間	時間	220	510	340	376	340	340	340	
(B) 人件費計	千円	906	2,059	1,372	1,530	1,372	1,372	1,372	
トータルコスト(A)+(B)	千円	1,170	2,197	1,581	1,716	1,520	1,535	1,581	

事務事業名	マタニティ学級実施事業	所属部	健康福祉部	所属課	健康づくり推進課
-------	-------------	-----	-------	-----	----------

2 評価の部 (SEE)

*原則は24年度の後評価、ただし複数年度事業は24年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①24年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	<input type="checkbox"/> 達成した 参加者を増やすために、学級の周知徹底が必要。また、満足度を上げるためにも内容を検討する。	<input checked="" type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【原因】
	②25年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり ⇒【理由】 周知の徹底と対象者のニーズに合った内容を盛り込み、参加者の増加及び満足度を高める。	<input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 「仕事をしているので平日は休めない」、「産婦人科のマタニティ学級に参加するので参加しない」という妊婦もいるため、参加率が伸び悩んでいる。市のマタニティ学級の利点（同じ地域で育児をする仲間ができること）をきちんと説明し、参加率を上げる。また、出席者の満足度を維持していく。	<input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input type="checkbox"/> 他に手段がある ⇒【理由】 (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 他に類似した事業がない。	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 最低限の経費で実施している。	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 必要最低限の専門職と職員で実施している。	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 参加費は無料。調理実習の時は米半合を持参。広報やホームページ等で周知するとともに、母子健康手帳交付時に全員に周知しており、受益機会は公平である。	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 過去の実績から、更に対象者のニーズを捉えて事業に反映させることが出来ると思われる。	<input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】

3 評価結果の総括 (SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

周知方法は、妊婦へ母子健康手帳発行時(転入者は転入手続き時)に、市のマタニティ学級の利点(同じ地域で育児をする仲間ができること)を説明しながら直接呼びかけを行い、パンフレットを配布している。またはがきで個別通知を行っている。近年の参加者の傾向としては、妊婦が微減傾向にあるため、更なる学級の周知徹底が必要である。しかし、配偶者が増加傾向にあることは評価できる。内容については、妊婦同士が初めて出会い交流を深める場となっており、今後安心して楽しく育児ができることにつながっている。また配偶者の参加が増加していることは、配偶者参加型の内容になっており、その要望が高まってきていると考えられる。反対に妊婦だけの参加がしやすいための配慮も必要である。よって参加率及び満足度を上げるためには、周知方法としては、直接呼びかけを行う際に具体的な学級の説明を行うなどの工夫が必要である。また、対象者に応じた内容の再検討としては、市のマタニティ学級へのニーズを把握し更なる内容の充実を図る必要がある。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持																					
	低下																					
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策																						